

学校の取組から

各学校のICTを活用した学校運営や授業での取組を紹介します。

神谷小学校・稲田小学校

新校「都の北学園」開校に向けての小小連携の取組

北区では、小中一貫教育のさらなる充実を図るため、施設一体型小中一貫義務教育学校「都の北学園」を、神谷中学校サブファミリーを構成する稲田小学校、神谷小学校、神谷中学校の3校で、令和6年度に開校します。

そこで、小中の連携を図るとともに、中学校に進学したときに差異が生じないように、小学校同士の小小連携も進めています。

<ICTを活用した小小連携取組例>

- ① 学校間で「きたコン」使用上のルール(情報モラル)の共通理解と摺り合わせを行っています。
- ② 宿泊行事(那須移動教室、岩井自然体験教室、日光高原学園)や小中合同行事(農業体験:写真)前に、オンラインを活用して担任の紹介や児童の交流を行いました。
- ③ 授業では、「きたコン」の活用スキルを合わせることが必要です。教科や単元などで「きたコン」の使い方に違いがあると、学習の定着に影響が出ることが考えられます。そこで、小学校2校の教師間で「きたコン」の活用状況を確認し合い、より有効な活用を目指しています。



オンライン交流のおかげで農業体験での交流会もスムーズに進みました。

浮間中学校 1年道徳「言葉の向こうに」

異なる立場の人同士のコミュニケーションの取り方と、顔の見えない相手とのやり取りなどのネット社会での問題について生徒に考えさせ、他者の思いや立場を考えて行動しようとする態度を養うことが授業の目標です。

動画教材から、物事には多様な考え方があることや、反論が感情的になってしまう傾向があることに気づき、グループ協議では活発に意見交換をし、全体発表では自分たちが考えた「立場の違う人と関わるときに大切なこと」を共有しました。



きたちゃんコンちゃん by Toshi



※「機動戦士ガンダム」からシェアのキャラクターを引用しました。



「この頃、『きたコン』を使う時間が減っていませんか?」

このような質問を保護者から受けることがあると、最近何人かの校長先生から聞きました。

多くの学校で、「きたコン」を使う時間が減っているのは事実です。

でも、それは GIGA スクール構想が3年目になり、教師も子供たちも、「きたコン」を必要とときに必要な時間だけ使うようになってきたからで

す。1、2年目は、とにかく使ってみることを第一に取組み、使ったからこそ効果的な場面が分かってきたというわけです。

調べ学習や学習のまとめの活動を参観すると、「きたコン」を使う子、資料集を使う子、図書室から本を借りてくる子等、子供たちも自分の課題に合ったメディアを選び始めています。